

令和4年度 学校努力点と推進計画について

1 名古屋市学校教育の努力目標

「ともに学び 自分らしく生きる」

- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指して、一人ひとりの興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- 子どもが、自他のよさに気づき、互いを尊重しながら自分らしく生きることができるようにするために、安心・安全で幸せな居場所となる学校づくりを推進する。

2 本校の教育目標

自律 協調 誠実

豊かな心と自ら学ぶ意欲を持ち、社会の変化に主体的に対応できるたくましい人間の育成を目指す。

- (1) 基礎的・基本的な学習内容を生かすようにする（幅広い学力の育成）。
- (2) 基本的生活習慣や思いやりの心を大切にする温かい人間関係を育成する。
- (3) 進んで運動に親しみ体力の向上を図るとともに、健康で安全な生活を営む態度を育成する
- (4) 自ら学ぶ意欲を持ち、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成する。

3 令和4年度の学校教育努力点とその推進計画

(1) 主 題

I a m O K , Y o u a r e O K !

～ 話し合う 認め合う ～

(2) 主題設定の理由

本校生徒の多くは、学習に対して前向きに取り組んでいる。また、学校生活アンケート（hyper-QU）の結果では、特別な配慮や支援がなくても自ら一斉指導に参加できる割合が高く、落ち着いて授業を受けることができていることが分かる。ただ、その一方で、自らの意見を考えることはできるものの、それを学級で発表したり、意見交換をしたりすることに対しては抵抗感をもつ生徒が多い。現行の学習指導要領では、新しい時代に求められる資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善が叫ばれている。これらの状況から本校生徒が「深い学び」を達成するためのレバレッジポイント（※）は、「対話的な学び」であると考えられる。

また、本校生徒の多くは、生活面においては、優しく、素直な生徒が多い。ただ、学校生活アンケート（hyper-QU）の結果から、多くの生徒が周囲に対して配慮する気持ちはあるが、行動はできていないことが分かった。同時に、「周囲の目が気になる」と答えた生徒の割合が多く、周囲との相互理解が不足していることが、行動に移すことができない要因であると推測される。本校生徒に育てている相手を配慮できる気持ちや優しさを行動に移すことができるようにするためのレバレッジポイント（※）は、「コミュニケーション力の向上」であると考えられる。

以上のように、「対話的な学び」、「コミュニケーション力の向上」を実現するために、目的を明らかにした上で、自分の考えや気持ちを「話し合う」ことを重点的に取り組んでいきたい。また、「話し合う」ことを通して、互いに「認め合う」ことができるようにし、互いの自己肯定感を高められるようにしていきたい。

※ 経済やシステム思考の分野での用語であり、近年、教育の分野でもしばしば使用される。「レバレッジ（leverage）」は、「テコの原理」という意味で、理科で学習する、支点・力点・作用点の3点を使って、小さな力で大きなものを動かすしくみのことを意味する。ここで言うレバレッジポイントとは、焦点を絞り、重点的に取り組むことで、他の分野にも好影響が期待できる点のことを指している。

(3) 推進の内容

- ① 「対話的な学び」を実現するための「話し合う 認め合う」活動を通じて、自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気付くことができなかつた事柄に気付いたりしながら、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。また、互いの意見や考えを認め合うことで、互いの自己肯定感を高められるようにする。

【「対話的な学び」を実現できた生徒の姿（例）】

- ・多種多様な考えがあることに気付くことができる
 - ・自分の考えと他者の考えの共通点や相違点に気付くことができる
 - ・自分とは異なる考えも認め、尊重することができる
 - ・複数の考え方から、適切なものを選択することができる
 - ・他者の考えを参考に、自分の考えを磨き上げたり、修正したりすることができる
 - ・自分の思いや考えを、言葉、絵、ジェスチャー等で表すことができる
 - ・課題を解決するために、一人一人が自分の考えを発信することができる
 - ・課題を解決するための方策について、互いの考えを認め合い、合意形成することができる
- ② 「コミュニケーション力の向上」を実現するための「話し合う 認め合う」活動を通じて、互いの立場を尊重するとともに、相手に自分のことを理解してもらい、自分が相手を理解できるようにする。

【「コミュニケーション力の向上」を実現できた生徒の姿（例）】

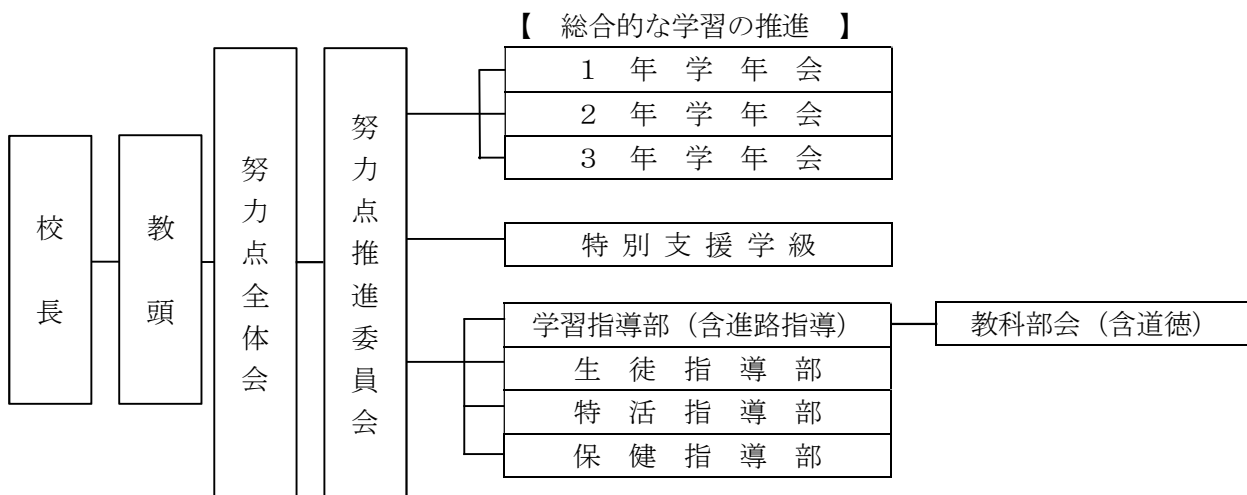
- ・自分の考えや気持ちを相手に分かりやすい言葉で伝えることができる
- ・表情、声の調子（ペースや大小など）、ジェスチャーなどで、自分の考えや気持ちを相手により分かりやすく伝えることができる
- ・適切な質問をするなど、相手の考えや気持ちを理解しようとしている
- ・相手の話を聞く際の表情や姿勢など、相手が話しやすい環境を整えることができる
- ・相手の表情、姿勢、言葉などから総合的に相手の伝えたいことをくみ取ることができる
- ・自分の立場からだけでなく、相手の立場、第三者の立場から俯瞰することができる

《「話し合う 認め合う」活動を実践する際の留意点》

- ・目的やルール・手順を明らかにし、生徒自身が理解していること
- ・時間・内容・目的に応じて、ペア活動・少人数グループ活動・学級全体活動などを使い分けること
- ・聞き手を育てることが、話し手を育てることにもつながることを念頭におくこと
- ・自分と異なる意見や考えに対して、その違いに気づき、互いに認め合える部分・方法を探るようにすること
- ・繰り返し実践することで生徒が活動自体に慣れ、加速度的に効果が上がるため、PDCA サイクルを活用しながら複数回実践できるように計画すること

(4) 推進組織

学校運営機構に従い、下の図のような組織で研究を推進する。



(5) 推進の手順

- ア 努力点の推進にあたって、努力点全体会で全職員の共通理解を図る。
- イ 努力点推進委員会で推進の基本的な考え方を示すとともに、各部会の連絡・調整を図る。
- ウ 学習指導、生徒指導、特活指導、保健指導の各部会で、主題と関連したより具体的なテーマを設定し、実践する。
- エ 教科部会は、学習指導部会と連携しながら、授業研究などを通して教科指導の在り方を追求していく。授業研究の成果と課題などについては、現職教育の場で研究協議を行い、よりよい指導方法や指導内容について話し合い全校体制で取り組んでいく。
- オ 各学年は、本校の総合的な学習の時間のねらいを達成するために実践に取り組んでいく。また、努力点主題に迫る総合的な学習の在り方を追求していく。

4 研究組織

- 学校運営機構に従った、努力点の研究・実践
「学習指導部」、「生徒指導部」、「特活指導部」、「保健指導部」の4部とし、これを「努力点部会」と呼ぶ。

5 研究のまとめについて（各教科、特支、道徳、進路、各指導部(生徒・特活・保健)、各学年総合）

- (1) 本校が1年間取り組んできた研究・実践について推進者を中心にまとめる。
- (2) 原稿は校内印刷する。（職員数+α）
- (3) 学習指導部は、教科指導を中心に、教科独自のテーマを設定して、実践し、まとめる。
（※ 特別支援学級は独自に行う）
- (4) 生徒指導部、特活指導部、保健指導部については、場面や観点を絞って実践し、まとめる。
（※ 学年ごとでも、部として代表した研究・実践でもよい）
- (5) 各学年は、努力点主題に迫る総合的な学習のあり方について考えて、実践をまとめる。
- (6) 研修会、研究会などに参加したその成果などを研究のまとめに掲載していく。

※ まとめの形式は、以下を参考にA4サイズ1ページにまとめる。提出期限1/13（金）

※ まとめたものを次のフォルダに保存する。「共有文書→R4文書→教務主任→努力点関係→努力点 まとめ」

※ 名前を付けて保存する。（例 国語まとめ、生徒指導部まとめ、1年総合まとめ）

国語科、生徒指導部、1年総合的な学習

I 指導目標（テーマ・主題）

.....

II 実践の内容（★工夫したポイント）

1

2

III 成果と課題（○成果、▲課題）

○

▲

IV 来年度に向けての課題解決の取り組み（IIIの中に入れてもよい）

写真や図、生徒の記述など、
具体的な資料があると
分かりやすい。

努力点研究のまとめ

1 ねらい

(1) 学習指導部のまとめについて

- ・ 今年度の本校教育の成果として努力点のまとめを行う。（特別支援学級を含む）
努力点主題に基づき、その目標達成のために実践を重ねてきた内容と成果をつかむ。
- ※ 努力点の主題や教育目標を達成するために実践したものについての記述とする。

(2) その他の部について

- ・ 各学年については、1年間の実践の成果と今後の課題を検討する。
- ・ 今年度の努力点主題、各指導部の目標からテーマを設定してまとめを行う。
- ※ どんな生徒を育てるか、どんな学校にしていくのか、今年度の課題、指導目標、取り組みについて、その方向性を明らかにする。

2 「努力点研究のまとめ」作成までの流れ

(1) 各部会での計画・実践・検討

- ・ 学年会（年数回）、教科部会（年数回）を設定する。
- ・ 1年間のまとめについては各教科、指導部、学年で検討する。

(2) 努力点研究のまとめ方

- ・ 1・2学期に実践した内容をまとめる。
- ・ 形式は、共有文書から「共有文書→R4文書→教務主任→努力点関係→努力点まとめ」に直接打ち込む。打ち込んだ後に、名前を付けて保存する。（例 国語まとめ、生徒指導部まとめ、1年総合まとめ）
- ・ 1/13（金）までに提出。その後係で、製本し、1/24（火）の発表会で活用する。

(記入例)

国語科、生徒指導部、1年総合的な学習

I 指導目標（テーマ・主題）

.....

II 実践の内容（★工夫したポイント）

1

2

III 成果と課題（○成果、▲課題）

○

▲

IV 来年度に向けての課題解決の取り組み

※ IIIの中に入れてもよい。

写真や図、生徒の記述など、
具体的な資料があると
分かりやすい。